

吹田個展を終えて

畑田美智子

吹田市より個展の要請があり吹田文化振興事業団企画の畑田美智子ガラスアート展を開催することになった。吹田市長の要望によりメイシアターの展示室に展示することとなる。時期は 2010 年 3 月 19 日より 25 日までの 1 週間で、準備はかなりしておいたが、初めての展示物もあり現場に行ってから考えるということもあって、開始前日の展示準備には、思いがけず長い時間がかかった。事業団のみなさんの協力もあり何とか格好はついたが 100 パーセント完全とはいかなかった。会期中は天候不順が続いたが、皆様にはよく来ていただいたと思う。

先ず特筆すべきは、市長が三人来訪、吹田、池田、羽曳野市長が日は違ったが見に来ていただいたことである。お茶の武者小路千家家元から受け付けに桜の花のあでやかな生花がとどき、和の心をテーマにした個展に華を添えていただいた。場所が広く、展示スペースに余裕があったので、メインの被せガラスを先ず展示し、次にこの 10 年の歩みとして、新聞、雑誌の切り抜きやワインラベル、銀座個展に寄せられたルーマニア大使と桐島洋子さんのメッセージや感謝状、トロフィ、楯を展示し 10 年間の成果物コーナーとした。

ガラスケースには新作の和の茶碗、行燈、花器を披露し、武者小路千家家元の書の掛け軸がそれに雰囲気盛り上げてくれる。『桜吹雪』、『湖面に映える逆さ富士』を解説書物と共に特別展示とした。

最後のクリアガラスコーナーには 10 数点を紹介し、絵葉書なども展示した。いろいろ変化をつけて展示したので見る人もほっと一息つけたように思う。また、自分の気に入った作品を再度見ることができたと、空間が広く動きが自由にとれたという利点があった。訪れた人には、スペースも少しゆったりと、余裕が持てたと思う。多くの人たちに来ていただき、お話も色々伺ったが、一番印象に残ったのは「今日は少し嫌なことがあったが、ガラス展があると知ってやって来てよかった。これらの作品を見て、癒され気分がすっとしました」と言われ、本当にやってよかったと元気づけられたことである。21 日のギャラリートークもはじめは何人の参加があるのか全く分からなかったが、約 40 人に来ていただいた。「被せガラスの魅力と和の心」をテーマに話したが、とても熱心に聞いてもらったし、いくつかの質問もあり、参加者には満足していただけたと思う。





吹田（坂口）、池田（倉田）、羽曳野（北川）3市長来訪

